

医療機関名 MCBIクリニック
採血日 2020年3月25日
検査受診者ID MCBI00000000001
氏名 MCBI ハコ 様

MCIスクリーニング検査結果

軽度認知障害(MCI)のリスクを調べる血液検査

【注意事項】 判定結果をご覧になる前に必ずお読みください。

本検査は、血液中の特定のタンパク質を調べることにより、アルツハイマー型認知症(アルツハイマー病)の前段階である軽度認知障害 (MCI)のリスクを統計学的に調べるものです。

早期に発見するためのスクリーニング検査ですので、本検査の判定結果で診断が確定するものではありません。

- ・ 認知症の最大のリスクは「加齢」です。30~40歳代の検査結果についてはMCIとは異なる疾患による影響を考慮した評価が必要です。
- ・ 本検査の血液中のタンパク質量は、栄養状態が悪い場合や自己免疫疾患などの炎症性疾患、先天的に脂質異常の方は影響を受けることがあります。

検査結果報告書の解説や認知症予防のための情報はこちら

<https://ninchishoyobo.com>



軽度認知障害（MCI）リスク判定

判定	MCIリスク値	測定項目		
B	0.69	APOA1	TTR	C3
		170 mg/dL	23.3 mg/dL	1.18 Unit

あなたは **B** 判定です。リスク値は **0.69** です。

MCIのリスクは低めです。

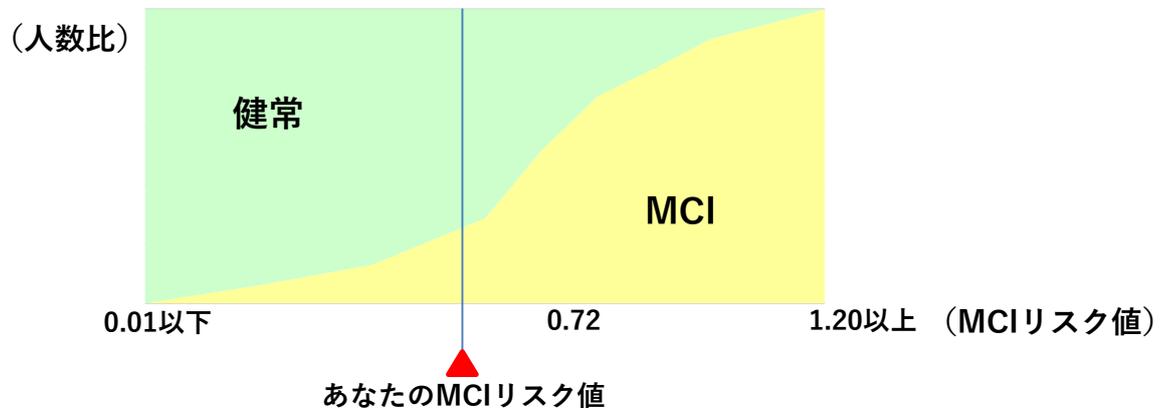
健康的な生活を意識的に習慣づけることで、MCIのリスクを抑えることができます。

予防は早く取り組むほど効果的なので、生活習慣を改善し、予防に努めましょう。

1年ごとの定期的な受診をお勧めいたします。

下の図は、健常もしくはMCIと診断された方の人数比（緑：健常，黄：MCI）を表しています。

▲はあなたのリスク値です。▲上の線で、あなたのリスク値における健常とMCIの人数比がわかります。



判定	リスク値	説明
A	0.62未満	MCIのリスクはほぼありません。 今後も健康的な生活を心がけましょう。
B	0.62～0.71	MCIのリスクは低めです。 健康的な生活を意識的に習慣づけることで、MCIのリスクを抑えることができます。
C	0.72～0.81	MCIのリスクは中程度です。 高齢の方*: 生活習慣を見直し、直ちに予防に取り組みましょう。物忘れなど気になること、不安なことがありましたら、専門医に診てもらいましょう。 中年期の方: 日常生活を見直すきっかけと捉えて予防に取り組み始めましょう。
D	0.82以上	MCIのリスクは高めです。 高齢の方*: 専門医による詳細な検査・診断を受診し、適切な指導を受けられることをおすすめします。 中年期の方: 将来MCI、認知症にならないように積極的に予防に取り組みましょう。

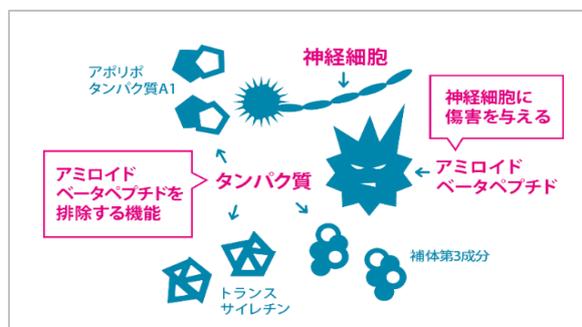
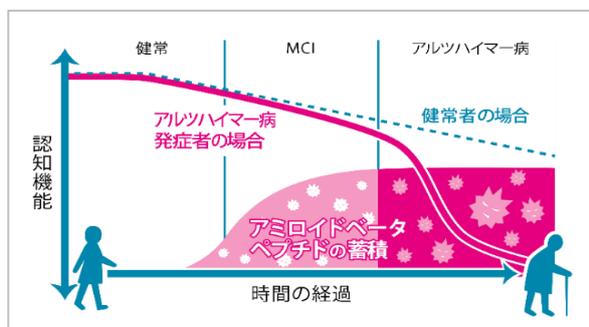
* 高齢の方とは一般的に65歳以上の方を指します。

《注意事項》

- ・本検査は認知症の前段階であるMCIのリスクを判定するものです。
- ・MCIの診断を行うものではなく、リスクを判定する検査ですので、認知症予防に向けたひとつの目安となります。
- ・MCIリスク値は、測定項目の数値の組み合わせにより算出します。測定項目の値は参考値となります。

◆軽度認知障害（MCI）とMCIスクリーニング検査について

- MCIは認知症ではありません。認知症になる前の状態です。MCIの段階で適切な介入を行えば、認知症の発症を予防もしくは遅らせることができると分かっています。
- 認知症で6～8割を占めるアルツハイマー病は、その原因となるアミロイドペータペプチド（Aβ）が脳内に少しずつ蓄積することにより発症します。Aβは神経細胞にダメージを与え、記憶障害や認知機能の低下を引き起こします（下図左）。



- MCIスクリーニング検査は、Aβを脳内から排出したり、毒性を抑制したり、炎症を和らげるなど神経細胞へ与えるダメージを抑制する3種類のタンパク質の量を血液で調べることにより、MCIのリスクを判定しています（上図右）。

測定項目	説明
ApoA1 (アポリポタンパク質A1) 標準的な範囲* : 140-195 mg/dL	ApoA1は善玉コレステロールの成分です。あたまの健康を保つ脂質を運んだり、Aβを排出する働きがあることが知られています。生活習慣病や糖尿病予備軍の方は値が低くなる場合があります。
TTR (トランスサイレチン) 標準的な範囲* : 21.9-33.8 mg/dL	TTRはからだの栄養状態や炎症の状態を反映するタンパク質です。あたまの中ではAβの毒性を防ぐ働きがあることが知られています。偏った食事や極端なダイエットを行っている場合は値が低くなる場合があります。
C3 (補体第3成分) 標準的な範囲* : 0.99-2.86 Unit	C3はからだの免疫力の主役となるタンパク質です。あたまの中のAβを排除する役割を担う細胞（ミクログリア）の働きに不可欠です。不規則な生活習慣や運動不足は免疫力の低下を招き値が低くなる場合があります。

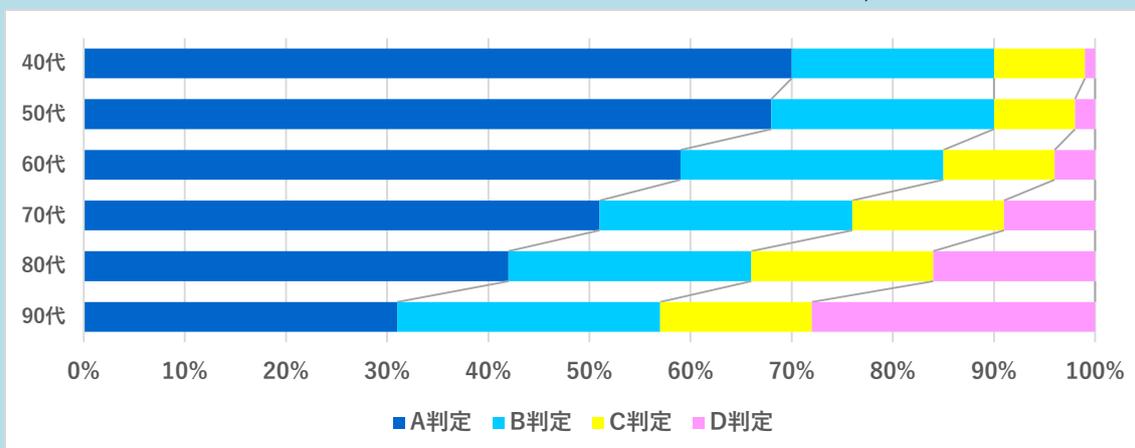
* 当検査受診者約16,000人を対象とした平均値±標準偏差を標準的な範囲として示しています。
 一般の血液検査の基準値とは異なりますのでご注意ください。

- ご自分の健康状態を知り、適度な運動、栄養バランスの取れた適量な食事の実践など、生活習慣の改善に取り組むことで、3つのタンパク質の量を適切な状態に向かわせ、MCIのリスクを低減させることが可能です。

◆軽度認知障害（MCI）とMCIスクリーニング検査について

MCIスクリーニング検査における世代別判定結果の分布

* 当検査受診者約16,000人を対象とした分布



- 加齢に伴ってA判定が減少し、D判定が増加します。
- 認知症は高齢になるほど発症のリスクが高くなる疾患です。年齢を重ねることで誰にでも起こりうる身近な疾患と言えるでしょう。
- 最近では糖尿病や高血圧、生活習慣病も認知症のリスク因子と考えられておりますので、若いうちから予防に積極的に取り組むことが大切です。

生活習慣の改善が認知症予防に有効です

- 適度な運動
- バランスの取れた食事
- 質の良い睡眠
- 趣味を楽しむ



検査結果は予防のヒントです

健康な方でも高齢になるにつれてMCIや認知症のリスクは高まります。

検査結果にかかわらず、生活習慣を見直し予防に取り組みましょう。

健康診断と同じように、定期検査を受けることでご自身の変化に早い段階で気付くことができます。